

第十一回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学低学年の部 受賞

# ひらひらおばあちゃんの時代へタイムワープ！

高岡小学校四年 尾崎 琴



## ◆きっかけ

ある日、お父さんが「ふみ子おばあちゃんは昔、ふるしきをせおって一年に一回だけ姫路へ買い物に行っていたらしい。」という話をしました。

自分のくらしとは全然ちがうとodoroki、その時代の暮らしを調べてみることにしました。

## ◆参考にした人と物

- ・村のおじいさん(77歳)からのお話
- ・おじいちゃん(67歳)からのお話
- ・おばあちゃん(67歳)からのお話

## ◆家にあった古い写真



- ・昔の結婚式は家であげていた。
- ・おじいちゃんは「お魚これにー」をしたらしい。



- ・えんのしたでニワトリをかってた。

- ・まどはサッシではなくしようにだった。
- ・けむりぬきのある屋根だった。
- ・真ん中はひいおじいちゃん。海軍に行くところ。



- ・いつも着物姿でした。
- ・仕事するときには、モンペを履いていた。

## 【衣】

- ・着物を着てぞうりをはいていた。
- ・小学校にはせい服を着ている人もあれば私服の人もいた。



- ・服はたんもの(ぬの)を買って自分たちで作っていた。
- ・全部お下がりがだった。
- ・きつくなった着物は赤ちゃんのおむつとしてさいり用されていた。(おむつにはちょうどいいやわらかさだった。)

## 【食】

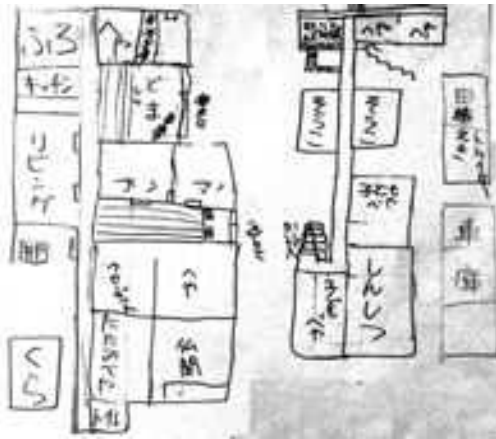
- ・田口には、おしょうゆさん、食料品屋さん、(やさいを中心に売っていた。つうしょう「とよちゃん」)、だがし屋さんの三けんがあった。
- ・お店の人が姫路まで行って買ってくるので売る時には今のようになんではない。時間がともかかるから。



- ・畑や田んぼで作ったり、ヤギやニワトリをかって自給自足の生活。みぞでは、シジミやドジョウを、池ではたにし、フナを取って食べていた。
- ・バナナは高級品だった。病気の時しか食べられなかった。

## 【住】

- ・けむりぬきの家があった。
- ・百円というとすごく大きなお金だった。今ではカード一枚でお金が払える。
- ・家でカイコを飼っている家もあった。
- ・電話はなかった。車もトラクターもなかった。電化製品もなかった。
- ・夏にはねるときかやははって、冬は湯たんぽ、まめたんで温めていた。



1階

2階

◆今の家

- ・ じゃ口をひねると水が出てくる。
- ・ ワンタッチでお風呂がわく



- ・ 牛で田んぼをすき、女の人が手で植えていた。
- ・ だから、ひいおばあちゃんたちはこしが曲がっている。

- ・ 井戸水で風呂をわかった。井戸水をくむのは子どもの仕事。飲み水も井戸からくんでいた。その後、ポンプが出来た。
- ・ わらでむしろ、なわをあんできていた。
- ・ ご飯、おかずもかまどで作っていた。

◆まとめ感想

・ まとめ  
物や食べ物全部自分たちで作っていることが多かった。自給自足でいるものは全て作って生活していた。今のようになんでも使い捨てるようなことはしなかった。物を大切に

- ・ 台所も土間だった。
- ・ 井戸水を風呂水、飲み水に使っていた。
- ・ みそべやもあった。

◆昔の家

- ・ トイレが外にある。
- ・ もう少し前は牛こやがあった。
- ・ 田んぼの仕事をしていた。



- ・ エアコン、冷ぞうこ、せんたくきなどの電化せい品がある
- ・ いすの生活になってる。
- ・ 洋式で水洗のトイレになった。
- ・ 車を一人一台もつようになった。
- ・ 農業もきかい化されてきた。

長く使っていた。戦争もあったので特に物もなかった。

・ 感想

自給自足の生活で、ないところから作ってくらしていたんだなあと感じました。子どもたちも労働力となり、みんな力であわせて生活していたんだなと思いました。

昔の子どもたちはきたえられて力が強かったんだらうなと思いました。今はとても便利な世の中になりました。その分、害も出ているのかもしれない。ふみ子おばあちゃんに合ったことないし、時代もちがうけど、これからはずつとこの家で昔のことも大切にしながら生きていきたいです。



ふみ子おばあちゃんに会えたみたいでうれしかった。

第十一回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学高学年の部 受賞

# 神谷の伝統行事について

福崎小学校六年 家田 塔羽



## ◆調べようと思った理由

ぼくは七月九日、日曜日に村の「夏祭り」に参加しました。天気が悪く雨だったので予定されていた「子ども相撲」は中止になりました。村の区長さんや役員さん達と神事（しんじ）だけ行われたので、ぼくは子ども代表として参加してきました。

神社の中にはお供えが飾ってあり、神社の一番奥の扉も開けてあります。神事後、御洗米、御神酒を近所のおばちゃん配ってくれました。ぼくが居るからおじさん達が昔の話聞かせてくれました。びっくりするような話もあっておもしろかったです。なので、ぼくが住んでいる神谷の伝統行事を調べようと思えました。そのため、近所に住まれている色々な年齢の方にアンケートをさ

せてもらって、話を聞きに行きました。

神谷アンケート 8月9日 曜日 名前 ●●●● 49 歳

とんど	神谷の神事	神谷の行事
神事(はつう祭)	相撲をして、お供えをたて、お神酒を飲む。	小笠原村まで、子供が遊びに来る。
神事(いじ)	夏祭りに行く。お供えをたて、お神酒を飲む。	大勢の人が来る。
神谷の祭り(お供え)		他の村ではお供えをたて、お神酒を飲む。
夏祭り(子ども相撲)		お供えをたて、お神酒を飲む。
お供え(お供え)		お供えをたて、お神酒を飲む。
お供え(お供え)		お供えをたて、お神酒を飲む。
お供え(お供え)		お供えをたて、お神酒を飲む。

アンケートは20人から回答いただきました。その一部です。

## ◆夏祭り(子ども相撲・神事)

ごぞをしいて座った。山崎の神主さんが神様が通るために真ん中はあける方がいいことや座わり方を教えてくれた。お参りの仕方も前に行っている人を見て覚えた。そして最後にぼくもお参りをさせてもらった。さかきを手元でくるとまわして供えて二礼二拍手一礼もした。(日本の神社の拝礼作法です。お辞儀を二度行い、二度手を叩き、最後にもう一度お辞儀を行う。)

神様には山のものとして野菜、海のものとしてスルメ、お酒、お洗米、お菓子が供えられていた。そして神社の奥には昔の鏡も供えられていた。

## ・行事内容

七月二十三日に大歳神社で行われる。「夏越の祓い」の一種で自社の境内などに大きな釜を据え、ササ東を持った宮司が煮えたぎる熱湯をそのササで自分の体にふりかけたり、四方にふりかけながら清めの祈禱をし、無病息災を祈る行事。祈禱が終わった後、持ち寄ったタオルを釜に浸して体を拭くと夏負けや病気になるからいいといわれている。神谷区ではこの行事の後に村の子どもたちによる子ども相撲が奉納されていたそう。現在は子ども相撲と神事のみ

されている。

## ・村の人の話

- ・田植えを村の人たちみんなで協力して行い、その後にみんなでお酒を飲み労をねぎらっていたように思う。(76歳男性)
- ・相撲の取り組みが年上の人が多く、よく負けた。でも楽しかった。(44歳男性)
- ・相撲をとるとお金がもらえてうれしかったなあ。(70代男性)
- ・男の子が少なくなってきた。今は女の子も相撲をとるようになった。(41歳女性)

## ◆トンド

昔は一月十三日に公民館で行われる。門松やしめ縄など正月飾りを燃やし、一年の無病息災を祈り厄よけを行う行事。

近年は一月第二日曜日の夜に行われている。

※ぼくは毎年、家族でトンドに行っています。書き初めを燃やして、高く燃え上がると「字が上手になる」ときいていて高く燃え上がれ!と思っていました。

## ・村の人の話

昔は少年団があつて、中学生まで

の子どもたちで全て準備をしていた。木を組んだり、正月飾りも集めたりしていた。(76代男性)

- ・書き初めを燃やしたことを覚えてる。(77代女性)



友達とおもちやマシュマロを焼いて食べるのが楽しい。

- ・子ども会が主体で現在は準備をしています。字がきれいになるように祈ったり、おもちを焼いたりして楽しいひとときです。(63歳女性)
- ・昔は弁天池で火を燃やしておもちを焼いていた。(55歳男性)

#### ◆斎灯・柴灯(さいと)

二月三日に大歳神社で行われる。節分は「神様の正月」といい、青年たちがお宮の枯れ木を集めて夜通し火をたく。夏負けしない、病気にからなれないといい、うしみつ時(午前

二時)にお参りする。この時、途中でだれに会っても言葉をかわさない。昔はナントウといって銭十二銭、米一升二合をこもで巻いた手おけに入れ、神前に供えた。「兵庫探検」より)近年は、青年が中心となり組織した盛年会でうどん・そばをふるまっている。



#### ・村の人の話

- ・木のまわりで遊ぶのが楽しかった。(57歳男性)
- ・うどんやそばがおいしかった。(17歳男性)
- ・子どもからお年寄りまでみんな楽しめる行事。(70歳男性)
- ・昔は老人会が準備をしていた。(76歳男性)
- ・大人も子どもも一緒に火にあたりながら、うどんやそばを食べました。(48歳男性)

#### ◆初午(はつうま)

昔は二月十一日に大歳神社で行わ

れていた。(今は二月十一日前後の日曜日に行っている。)春の農事に先がけて豊年を祈る祈年祭の意味で行われている。

この祭りの時には子ども相撲はとられるが、本来、相撲は豊年の年占いとして行われていた競技で、現在でも神事の際に行われることが多い。神谷区の初午でも子ども相撲が行われる。

#### ・村の人の話

- ・一回十円くらいもらって相撲をとった。(57歳男性)
- ・お宮さんののぼりを立てて子どもが相撲をとった。(63歳女性)
- ・子どもの頃、相撲をとったらおこづかいがもらえた。(78歳男性)
- ・相撲をとる度に五十円ずつもらえるのがうれしかった。(17歳男性)

#### ◆地藏盆

八月二十三日に大歳神社で行われる地藏祭(地藏盆)は、村の入り口や辻にある地藏尊を提灯などで飾り、だんごやお菓子を供えて奉る行事であり、もとは旧暦七月二十四日(新暦八月二十四日)が盆祭りの終わりの日であり、それが地藏菩薩の縁日といわれる二十四日と一緒にになったと伝えられる。地藏さんは、子ども

を病気や災難から守ってくれるものであり、この日の行事も子どもを中心としたものが多く残っている。現在は八月二十三日に医王寺で読経があり、参拝したり、盛年会が中心となり流しそうめん、消防団がかき氷等、村の人たちが集まる行事となっている。



#### ・村の人の話

- ・花火や爆竹をして遊んでいた。(55歳男性)
- ・材料集め(赤飯の)赤飯を参拝した人に配るなど少年団がしていた。提灯を階段に準備もした。(58歳男性)
- ・提灯のろうそくの火の番をしながらわいわいさわいで夜おそくまで楽しく過ごしていた。(44歳男性)
- ・昔は男の子のみでしたが、今は男女一緒に、お寺、盛年会の皆さんの協力で流しそうめんなど楽しいひとときです。(63歳女性)



## ◆「ニジュウソ」

「ニジュウソ」は旧暦十一月二十三日に行われており、主に稲荷社を中心として行われていた。神谷区では十二月十七日に行われる。大歳神社お稲荷さんの前で小学生の奉納相撲が行われ、相撲をとった子に赤飯がふるまわれる。一回相撲をとったら五十円もらえる。

同級生や姉、年上の人には本気で相撲をとっていた。名勝負をした時には、見てる人が応援をしてくれたら、笑っていたり、とても楽しい。小さい子とする時はわざと負けてあげたりして自分がしてもらっていたようにしている。

## ・村の人の話

一回十円もらって相撲とっていた。(50歳男性)

言葉の意味も含めてお年寄りに聞くことが必要な。(70歳男性)

いわれがよくわからない。昔から相撲をしている。(66歳男性)

一年最後の午の日に相撲をとっている。(73歳女性)

## ◆秋祭り【福崎地区】

秋祭りは福崎地区、高岡地区の屋台十三台(布団屋根型六台、神輿屋根型七台)が二之宮神社に集まり盛大に行われる。宵宮は昼に蔵から屋台を出して村の中を練り歩き、区長宅、消防団長宅、新乗り子宅等まわる。



神谷は小学二年生が新乗りになる。新乗りの際に家に来てもらって、みんなでジュースやオードブルを食べた。

本宮は、昼頃から宮元である山崎屋台が十二台の屋台をJRR福崎駅前

へ迎えに行く。福崎駅で練り上げられた後、山崎屋台を先頭に福田区↓馬田区↓新町区↓神谷区↓長野区↓西治区↓西谷区↓高橋区↓桜区↓板坂区↓田口区↓駅前区の順に二之宮神社に宮入りをする。拜殿で神事が行われ、五穀豊穡が祈願された後は、駅前屋台から宮出しが行われる。山崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし練り合わせを行う。「十三台サラバ練り」は見所である。

小学校の運動会が終わってから、公民館で伊勢唄の練習をします。神谷の太鼓や伊勢唄を教えてください。人は教え方がとても上手です。だからみんなすぐに上手になります。(平成二十四年から女の子も乗るようになりました。)

屋台蔵から出したら、まず大歳神社に行きます。坂道をみんな力を合わせて登っていきます。

屋台蔵から出したら、まず大歳神社に行きます。坂道をみんな力を合わせて登っていきます。



屋台蔵から出したら、まず大歳神社に行きます。坂道をみんな力を合わせて登っていきます。

屋台蔵から出したら、まず大歳神社に行きます。坂道をみんな力を合わせて登っていきます。

刺繍がしてある幕をせずに村の中だけ練り歩きました。



## ・村の人の話

・乗子子はしんどかったけど楽しかった。消防団は準備から練習が大変だった。終わった後は充実感があつた。(57歳男性)

・昔は駅前から屋台をかついで行っていた。(76歳男性)

・小さい村ですが、みんなで協力して屋台を出しています。お昼は乗子の子の母がつくるおにぎりとおでんが用意されています。(63歳女性)

・中学三年まで乗子子として乗っていた。楽しかった。(44歳男性)

昔は二年に一度屋台を出していた。青年団の頃、屋台を出してほしいと小学生に頼まれて区長宅にお願いしに行った事を覚えている。(78歳男性)



#### ◆神谷についてのまとめ

神谷は小さな村です。小学生は九人だけです。人口は男七十二人、女八十七人、合計百五十九人世帯数は六十五件、福崎・高岡校区の中で一番小さい村です。小さい村だけど、昔から行われている伝統行事はたくさんありました。漢字が分からない行事もあったけど、ぼくは色々な人と昔の話を聞けておもしろかったし、楽しかった。ぼくもそうやって伝統行事を受けついで伝えていきたいと思いました。

・村の人に聞いた神谷のいいところ  
 ・小さい村だがまとまりがある。  
 ・子ども同士仲が良く、子ども会の行事も全て楽しかった。

・ひのき山からの村の景色が好きです。  
 ・みんながみんなを知っていて安心してくらしめます。

・他のどこの村にも住みたいと思いません。

・お互い助け合いの気持ちが強く、協力的である。

・小さい村の割に神社が立派

・神谷区の文化が継承されている所

・少ない世帯人数であるからこそその一体感

・村民が協力しあって支えあっている。



・子どもの頃から色々な行事に参加できて、他の村では体験できないことがたくさんあります。

ぼくは神谷の伝統行事について調べて、今まで以上に神谷のことがい村だと思ったし、感じるようになりました。少ない幼なじみの子どもたちと大すきな神谷の伝統を語りついでいきたいと思いました。

柳田國男ふるさと賞はホームページからご覧いただけます。



#### 柳田國男ふるさと賞

福崎町が生誕の柳田國男先生は生前、「日本人とは何か」という問いの答えを求め、日本列島各地に赴き、その地の民間伝承等を調査、研究され、日本民俗学の確立に貢献されました。

その先生の功績を称え、町では小中学生に、より深く民俗学を学んでもらおうと平成25年度から「福崎町柳田國男ふるさと賞」を創設しました。

このふるさと賞は、夏期休暇などを活用し、自ら、郷土の歴史やそこに伝わる伝説・習俗などを調査、研究しまとめられた作品の中から優れたものに贈られます。

今回は11回目を迎えることとなりましたが、今までの作品をみますと、今、調べて残しておかないといずれ忘れられてしまうだろうと思われる貴重な作品がたくさんあるのに驚かされます。

第2の柳田國男が生誕することをお願い、郷土に愛着と誇りを持つる子どもに育ってほしいと創設した賞ですが、その副産物として、多くの作品が町の貴重な資料になっています。

このふるさと賞に参加いただいた皆さんに感謝を申し上げますとともに、引き続き柳田國男ふるさと賞への応募をお待ちしております。